

	頁
序	
凡例	
現代愛知の概観	1
第一章 占領政策とその転換	13
第一節 敗戦と占領政策の開始	14
敗戦にともなう混乱／進駐と復員・引揚げ／非軍事化と民主化／ 公職追放／メディアへの統制	
第二節 占領政策の受容とその展開	30
新憲法の制定／地方自治の確立と初の公選知事／ 特別市制問題／県行政組織の整備／行政の効率化と行政整理	
第三節 冷戦下の政策転換	48
占領政策の転換／公安条例と朝鮮戦争／講和と再軍備／桑原県知事の登場／ 戦後復興期の財政規模の膨張／シャープ勧告と県税改革／特需景気を反映した県財政／ 特別会計の再編成／コラム 小牧飛行場から県営名古屋空港にいたるまで	
第二章 戦争被害からの経済的復興	77
第一節 占領初期	78
財閥解体／労働民主化／農地改革／戦後インフレーション	
第二節 占領後期	92
復興期の愛知経済／金融機関の再編と復興／朝鮮戦争と特需景気	
第三章 戦禍からの暮らしの再生	103
第一節 戦災復興と地域社会の再編	104
敗戦直後の応急的な住宅復旧／戦災都市の復興／ 道路の復旧と交通規則の改革／伝染病の蔓延と公衆衛生対策／町内会の解散と存続	
第二節 生活と福祉の立て直し	116
生活への打撃と食糧難／流通の混乱と都市生活者の困窮／ 民生委員の役割変化／民間福祉の基盤形成	
第三節 教育改革	126
敗戦後の状況と義務教育改革／新制高校の誕生／ 高等教育機関の新設と再編／地方教育行政と社会教育の改革	
第四節 文化再生	136
文芸活動の再開／戦後芸術界の動向／活性化する陶芸界／ 音楽協会と菊里高校音楽科発足／国体開催とスポーツの復興／民間ラジオ放送の開始	
第五節 社会運動の復活・発展と規制	152
占領下の労働運動／平和運動の成立／占領下の民衆運動／ 在日朝鮮人問題と運動／コラム 戦前・戦後の区画整理事業	
第四章 県土の基盤整備	163
第一節 県土の基盤整備と県政	164
講和成立後の県政／地方制度改革と県／県内交通網の整備／自治体警察の発足と終焉	

第二節 政党県組織の再編と選挙	178
選挙戦の変化と公明選挙運動／繰り上げ選挙と桑原の再選／県政党組織の再編	
第三節 用水建設と特定地域総合開発計画	188
愛知用水の建設／豊川用水の建設／特定地域総合開発計画と県	
第四節 市町村合併の進展	202
国の法令に基づく県の対応／県と名古屋市の議論／尾張地方の動き／三河地方の動き	
第五節 地方税制改正と県土整備財政	218
県税新税目と地方交付税の創設／一般会計を支えた特別会計／ 伊勢湾台風等の災害対策費激増／重化学工業化と製鉄所建設／ コラム 昭和天皇による三つの愛知県訪問	
第五章 高度成長への助走	233
第一節 公益事業の整備	234
電力業再編成と供給体制の変化／名鉄の近代化	
第二節 農林水産業の復興と発展	242
農業生産力の上昇と農業構造／食糧増産と農業改良普及事業／ 新農村建設事業／木材需要の拡大と林業の復興／水産業の復興と発展	
第三節 軽工業の復活と拡大	260
繊維産業の復興／一般陶磁器産業の変遷	
第四節 重工業の再出発	268
名古屋港と臨海工業地帯の発展／地域鉄鋼業構造転換への胎動／ 自動車工業の再出発／機械工業の発展	
第五節 金融業・流通業の台頭	282
東海銀行の業容拡大／中小金融機関の発達／百貨店業の発展	
第六章 県民生活の構造の転換	293
第一節 広域的な情報・文化活動基盤の整備	294
テレビ放送の開始とその影響／文化活動基盤の整備	
第二節 生活改善と世帯更生	300
生活改善への関心の高まり／生活改善の広がりと家族の変化／ 民生委員による世帯更生運動／青少年の非行防止と健全育成	
第三節 教育の新展開	310
義務教育の展開／高校教育の展開／ 高等教育大衆化への助走／地方教育行政と幼児・社会教育	
第四節 多彩な文化の新展開	320
文芸活動の進展／愛知県文化会館・美術館の建設／ 「労音」と音楽文化の新展開／スポーツ活動の隆盛	
第五節 社会運動の定着	330
労働運動の展開／平和運動の発展／民衆運動の多様化／在日韓国・朝鮮人の運動と交流／ コラム 祭り ものづくりと伝統をつなぐ	
第七章 伊勢湾台風と社会整備	343

第一節 社会的被害	344
被害の状況／被害拡大の要因	
第二節 産業の被害と復興	352
産業の被害／産業の復興	
第三節 多様な救援・復興の活動	360
緊急対応／被災者支援／復旧・復興	
第四節 災害対策の法制的・社会的整備	370
災害対策基本法制定と県の動き／地域における防災の取組	
第八章 高度成長期の県政	379
第一節 広域行政の展開と公害対策	380
県行政と桑原県知事／中部圏構想と広域行政の展開／	
高度成長期の市町村／公害問題と県政の転換	
第二節 保革対立下の選挙	392
桑原の再選と投票率の低下／革新陣営の攻勢／県議会の構成と議員選挙	
第三節 地方計画の策定と展開	402
企画課の設置と企画部門の展開／愛知県地方計画の策定／	
愛知県新地方計画と推進体制／第三次計画とその推進	
第四節 市町村合併の展開	416
国の法令に基づく県の対応／県と名古屋市の議論／尾張地方の動き／三河地方の動き	
第五節 高度成長期の県財政	432
財政規模拡大と黒字基調／県税・国庫支出金等の歳入構造／目的別・性質別の歳出構造／	
特別会計等での成長路線／コラム 県政の軌跡①—復興から成長へ—	
第九章 高度経済成長期の産業発展	451
第一節 高度経済成長期の愛知経済	452
産業構造の転換／人口移動	
第二節 公益事業の拡大	460
発電力強化とエネルギー革命／都市ガス業供給体制の変化	
第三節 農業と水産業の展開	468
経済成長と農業・農家経済／農業構造改善事業／	
大規模水利事業と農業の変貌／水産業の高度成長	
第四節 軽工業の再編	482
繊維不況と構造改善事業／工業用陶磁器の変遷	
第五節 モータリゼーション下の自動車工業	490
乗用車量産体制の確立／自動車部品工業の役割	
第六節 重工業の拡大	498
YS-11の誕生／鉄道車両工業／家庭用機器の普及／東海製鐵の発展／地域鉄鋼業の発展	
第七節 金融業・流通業の再編	516
東海銀行の大衆化と重点融資／相互銀行の躍進／信用金庫の台頭／	
繊維流通会社の経営と流通革新／スーパーマーケット業界の再編／	

商業の近代化と地域商工会議所／コラム　クルマの町　豊田市	
第十章　都市化の進行と大衆社会化	537
第一節　都市圏の形成	538
人口集中と都市圏の拡大／モータリゼーションと交通政策／	
住宅難の解消と住環境の向上／メディアの普及とその影響／文化教育施設の充実	
第二節　都市的生活様式の浸透と福祉の進展	554
消費生活の拡大と女性の活躍／既婚女性の雇用労働への進出／	
共同保育所の開設と運営／医療・福祉の基盤整備	
第三節　教育の大衆化	564
義務教育人口変動への対応／高校教育の大衆化／	
膨張する高等教育／幼児教育と社会教育の整備	
第四節　文化の大衆化	574
文芸活動の継承／芸術専門大学の開設／新たな芸術活動の展開／	
オーケストラ・名フィルの発足／米中友好・ピンポン外交の緒	
第五節　社会運動の高揚と広がり	586
安保条約改定反対闘争／高度成長下の労働運動／安保闘争後の平和運動／	
市民・住民運動の定着／在日韓国・朝鮮人の運動と連帯／公害問題の噴出と追われる対策	
第十一章　安定成長期の県政	601
第一節　新しい県政像の模索	602
高度成長期の終焉と仲谷新県政／安定成長期の課題と取組／名古屋高速道路の計画変更	
第二節　安定成長期における地方計画	612
県民参加による第四次計画策定／第五次計画とその後の展望	
第三節　第二次オイルショック後の県政	620
仲谷県政から鈴木新県政へ／公害対策から環境政策へ／	
交通システムの転換と拡充／県と都市外交	
第四節　安定成長期の県財政	636
財政難に陥った県財政／法人関係税の不安定性／	
経済回復過程の県財政／安定成長期の県財政の特質	
第五節　二十一世紀に向けての県政の転換	652
名古屋オリンピック招致問題／中部新国際空港の推進／	
コラム　県政の軌跡②―財政難を乗り越え新しい飛躍へ―	
第十二章　安定成長期の産業経済	663
第一節　オイルショックと「省エネルギー」	664
安定成長期の愛知経済／中部電力と県の省エネ対策／名古屋製鉄所の省エネ対策	
第二節　一九七〇年代の輸出主導型経済への移行	674
公害問題への対応／食品産業の展開／繊維産業からの事業転換／産地織物業の動向／	
二つのコクサイ化と東海銀行／流通業における多角化の動き	
第三節　一九八〇年代の産業成熟	694
生産体制と国際競争力の強化／三菱自動車・愛知機械の発展／航空宇宙産業の発展／	

ファイナセラミックス産業の変遷／メカトロニクス産業の発展／ 名古屋製鉄所の競争力強化／バブル経済と各種金融機関／流通・サービス業と新たな業態／ 安定成長期の農業／コラム 三河の伝統産業	
第十三章 新たな県民社会の模索	725
第一節 定住社会の構築とメディアの拡大・高度化	726
生活圏への注目とコミュニティ／過疎化の進行と流域圏の形成／ 情報技術の革新とテレビの再編	
第二節 支え合う暮らしの模索	736
性別役割分業への問題意識／市町村社会福祉協議会の新動向／高齢化社会への対応	
第三節 教育の課題と新たな試み	744
「教育問題」への関心と対応／高校増設計画と入試改革／ 高等教育と地域の新たな関係へ／生涯学習体系の形成へ	
第四節 文化の多彩な展開	754
文芸活動の定着／美術館・博物館の建設ラッシュ／ 名古屋二期会の発足と活動／県出身選手の国際舞台での活躍	
第五節 新しい社会運動の出現と展開	764
労働運動の後退と再編／市民による新たな平和運動／ 差別撤廃と人権擁護運動／公害反対と環境保全運動	
第六節 調和ある県民社会の展望	774
複合的な産業構成／多角的な地域構造とインフラ整備／ 合意形成を軸にした県土づくり／バランスある県民意識／ コラム “過疎、”といわれる村で生きる	
あしがき	788
執筆分担	791
引用・参考文献一覧	794
掲載図版一覧	826
資料提供者及び協力者	838
愛知県史編さん関係者名簿	840
索引	